

2021 年度

講義科目名称： 日本語学概論B

授業コード： 21042

英文科目名称： ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
後期	講義	2単位	
曜日時限			
後期： 火曜1限			
配当学科・学年			
教育1(64)、教育1(65)、教育1(66)			
担当教員			
山口 響史			
添付ファイル			
授業テーマ			
日本語の乱れ、文字表記、方言および日本語学史に関する種々の知識を習得し、日本語への理解を深める。			
講義概要			
日本語学の基礎的な知識を学ぶ。具体的には、現代日本語の乱れ、文字表記、方言および日本語学史を学び、それぞれの特徴について理解を深める。			
到達目標			
① 文字のはたらきと種類について説明できる。 ② 漢字の成立や特質について理解し説明できる。 ③ 現代仮名遣いについて理解し説明できる。 ④ 方言の特徴や具体例について理解し説明できる。 ⑤ 近世以降の日本語学の研究史について理解し説明できる。 ⑥ 日本語の乱れについて理解し説明できる。			
評価方法			
・講義時の課題・小テスト・レポート (50%) ・定期試験の結果 (50%) で評価する。			
フィードバックの方法			
・小テストは採点して返却。 ・質問等は毎回提出して返却するコメントカードによって行う。必要に応じて受講者全員にも説明する。			
評価基準			
(最低限の到達度) (可)			
① 文字のはたらきと種類について6割方理解し、課題を提出している。 ② 漢字の成立や特質について6割方理解し、課題を提出している。 ③ 現代仮名遣いについて6割方理解し、課題を提出している。 ④ 方言の特徴や具体例について6割方理解し、課題を提出している。 ⑤ 近世以降の日本語学の研究史について6割方理解し、課題を提出している。 ⑥ 日本語の乱れについて6割方理解し、課題を提出している。			
(最も望ましい到達度) (秀)			
① 文字のはたらきと種類について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ② 漢字の成立や特質について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ③ 現代仮名遣いについて9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ④ 方言の特徴や具体例について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ⑤ 近世以降の日本語学の研究史について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ⑥ 日本語の乱れについて9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。			
テキスト			
特に指定しない。			
参考書			
衣畑智秀編『基礎日本語学』ひつじ書房 工藤浩ほか『日本語要説』ひつじ書房 その他、必要に応じて紹介する。			
履修上の注意			
・配布資料はあくまでも補助的なものである。板書やスライド、説明はノートに記録すること。 ・授業へはただ参加するのではなく参画するようにすること。 ・毎回提出するコメントカードには、質問・授業の要約・感想などを丁寧に書くこと。			
準備学習<予習・復習の時間・内容>			
2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間(4時間×15回)の事前事後学修が必要です。それぞれ30時間の事前学習(予習)と事後学習(復習)を目安に学習に取り組んで下さい。 予習 ・提出された事前課題(「文字のはたらき」「六書」など)に取り組む。 ・レポートの課題について調査する。 復習 ・講義後に配布プリントやノートを見てよく復習する。			
オフィスアワー等			
質問等は、受講者が毎回記入するコメントカード、講義終了時および火曜2限に受付ける。			
備考・メッセージ			
課題等は遅れても提出すること。			
ディプロマポリシー			
学教：DP2、特支：DP2			
科目ナンバリング			
学教：ED-E-EA1034-A34、特支：ED-E-EA1034-A34			

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
1	講義	山口響史	オリエンテーション 一言葉の乱れとは何か	シラバスを熟読して、講義の目標・進め方・ 受講者評価について理解できる。 日本語の乱れの概要について理解できる。		
2	講義	山口響史	言葉の乱れ①	日本語の動詞の活用について知る。 ら抜き言葉の概要について知る。		
3	講義	山口響史	言葉の乱れ②	さ入れ言葉について知る。 さ入れ言葉の特徴について説明できる。		
4	講義	山口響史	言葉の乱れ③	さ入れ言葉やら抜き言葉が出現する理由につ いて理解できる。		
5	講義	山口響史	文字・表記①	日本の漢字音の種類がわかり、その特徴につ いて説明できる。 「六書」とは何かを知る。 表音文字・表意文字の定義を説明できる。		
6	講義	山口響史	文字・表記②	湯桶読み・重箱読み・熟字訓・同音漢字・同 訓漢字・多訓漢字・多音漢字などの術語とそ の意味を説明できる。 国字・国訓について説明できる。		
7	講義	山口響史	文字・表記③	万葉仮名・平仮名・片仮名の特徴を説明でき る。 文字の成り立ちについて説明できる。		
8	講義	山口響史	文字・表記④	印刷は文字に何をもたらしたかを知る。		
9	講義	山口響史	方言①	日本語の方言の特徴について知る。 方言圏論について説明できる。		
10	講義	山口響史	方言②	各方言の特徴について知る。 自らの使用する方言の特徴について内省し、 説明できる。		
11	講義	山口響史	方言③	方言の歴史的な資料について知る。		
12	講義	山口響史	日本語学史①	近世以前の日本語研究について理解できる。 キリシタン資料について説明できる。		
13	講義	山口響史	日本語学史②	近世における活用研究について理解できる。		
14	講義	山口響史	日本語学史③	近代以降の日本語研究の流れについて説明で きる。 学校文法の特徴について説明できる。		
15	講義	山口響史	全体のまとめ	これまでに学習してきたことに関する課題につ いて、まとめて述べることができる。		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	講義	教室	1	資料を配付し、適宜パワーポイントを 使用する。	90分×15